

《第 488 回 (2022 年 1 月 13 日) 子どもの本の読書会記録》 参加者：6 人

時間：10:00~11:30 場所：オーテピア 4 階集会室

『せいめいのれきし 改訂版』 バージニア・リー・バートン／文・絵, いしい ももこ／訳, まなべ まこと／監修 岩波書店

『せいめいのれきし』は、1962 年にアメリカで出版された絵本です。1964 年には石井桃子の訳により、日本で刊行されました。今回の読書会で取り上げるのは、その約 50 年後の 2015 年に出版された改訂版です。

この『せいめいのれきし』では、銀河系の誕生から現在まで続く生命のつながりを、演劇の舞台に見立てて紹介していきます。改訂版は、元の絵本のニュアンスはそのままに、この 50 年間の研究の知見が反映されたものになっています。

ページを開いて左側には、各時代に繁栄した生物の活躍を象徴するような絵が、大きく描かれています。その絵は、やさしくてあたたかく、生命について興味を持った読者を惹きつける魅力があります。

地球の歴史を改めて知ると、人間の歴史の短さに驚かされます。1 冊を通して読んで生命の歴史に思いをはせるのもあり、好きな生き物が登場するページだけじっくり読み返すのもあり。こどもだけでなく、大人が読んでも楽しめる絵本です。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●学校には必ずある本だが、こどもが自らページを開く様子を見たことがない。でも、小学校の高学年で宇宙についての授業をすると、こどもたちはとても興味を持つ。「〇〇光年」のような、とてつもない話が好きなこどもは多い。今は科学の絵本がたくさん出版されているので、大人が紹介してあげないと、この本は手に取られないかもしれない。

●この本を読んだのは大人になってからだったが、確かにこどもに手に取られにくいのは分かる。アニメーションにしたら見てくれそう。見返しの部分の絵

が好き。細かく描かれていて、ずっと見ていられる。今後も大きな発見があって、さらに 50 年後くらいにまた改訂になるかも。改訂版監修者による解説書、『深読み!絵本『せいめいのれきし』(真鍋真／著 岩波書店)もぜひ。

●改訂版をじっくり読んだのは初めて。そんなに大して変更はないだろうと思っていた。違いを書き出そうとしたけど、多すぎて 3 ページ目くらいで諦めた。人間の歴史が描かれている場面は、『ちいさいおうち』に似ている。最後は、読者にバトンを渡すような終わり方。バートンが、古いものに愛着を感じることができる作家だということがよく分かる。

●明るい表紙に、興味をひくようなデザインの本。この本が改訂されたのは、とてもおめでたいことだと思う。科学が進歩して、それをこどもに伝えていこうという姿勢が伝わるから。旧版の細かい部分が思い出せなかったので、今回の改訂版を新鮮に読んだ。時代の変化を劇に例えて表現するのは、物語性が感じられて楽しい。字が読めない子も、絵を見て楽しんでほしい。

●こどもが小学 2 年生の時に贈られた本。こどもは気に入って読んでいたが、自分は好きではなかった。地球の歴史が分かりやすく描かれていて良い本だと思うが、アメリカの今に繋がっていく部分が嫌いだった。今回初めて改訂版を読んだが、すごく面白かった。地球がどのようにしてできて、生物が誕生し栄え変化し、今に至り未来に繋がっていくのかストーンと落ちた。

次回 2 月 10 日 (木) 10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『秋』 かこ さとし／文・絵 講談社

申込み・参加費不要。新型コロナウイルス感染拡大の状況により、変更・中止となる場合があります。変更・中止については、オーテピアのウェブ・サイトにてお知らせします。